

平成 27 年度第 2 回伊勢市総合教育会議 結果概要

◆日時 平成 27 年 11 月 17 日（火） 17:30～18:50

◆会場 伊勢市役所小俣総合支所 3 階 大会議室

◆出席者

伊勢市長 鈴木 健一

教育委員長 畠中 節夫

教育委員長職務代理者 中西 康裕

教育委員 中居 信明

教育委員 松田 丈輔

教育長 宮崎 吉博

◆出席職員

情報戦略局長、企画調整課長、企画調整係長、企画調整課係員、
健康福祉部長、教育委員会事務局教育部長、教育次長、教育総務課長、社会教育課長、
スポーツ課長、文化振興課長、教育研究所長、教育総務課副参事、学校教育課副参事、
学校教育課副参事、学校教育課副参事、学校教育課副参事

◆内容

1 開会

2 市長あいさつ

3 前回会議の確認

4 議題

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を持った子どもの育成について

5 その他

6 閉会

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

【「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を持った子どもの育成について】

事務局が「伊勢市人口ビジョン」「伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「伊勢市子ども・子育て支援事業計画」について説明の後、以下の意見交換を行った。

（グローバル人材の育成について）

- ・来年の伊勢志摩サミットが良いきっかけになる。子ども未来会議のように、子どもたちが自らの視点で外国人のおもてなしを考えることで、グローバル人材の育成につながる。
- ・以前、市内のALTを一つの学校に集めて英語の授業を試みたところ、大変素晴らしい授業になった。現在、1人のALTが約30人の子どもを教えているが、少しずつALTを増やし、子どもたちが本物の英語に触れる機会を増やすことが大切である。
- ・日本の外に出たとき、伊勢や日本のことを知らないとハードルが高くなる。子どもの頃から伊勢や日本について学ぶことで、ハードルを低くすることができる。まずはALTから学んだり、現地を訪問したりする機会を持つことが大切である。
- ・グローバル人材としては外国語の習得、郷土についての理解、問題解決能力の三つが欠かせない。英語で伊勢や三重、日本のことを学べる教材を作成したり、毎年2～3人の子どもを海外派遣できる制度を作ったりしてほしい。また、答えを覚えるよりも、人との対話を通して答えを見つける能力を磨いていくことが大切である。
- ・製品のラベルを見ると外国製であることが多いし、外国人の住民も増えている。日常でもグローバル化が進んでいるように思われる。母語以外の言語で自分や伊勢を紹介すること、また、伊勢が他言語でどのように表現されているかを知る機会があると良い。
- ・神宮を英語でどう表現するかについても、子どもたちが学べる機会があると良い。
- ・グローバル人材育成の方法や手段を考える以前に、その目的を整理して明確にしておくことで、適切な方法や手段が自ずと見えてくる。また、裕福な国々だけでなくアジアやアフリカにも目を向け、貧困の現実を知ること重要である。
- ・サミットに関しては、一般市民と各国からの来訪者との間に直接的な接点があるのか、セキュリティの事情を考えると疑問である。伊勢市として、三重県として、日本として、それぞれのレベルで何を行うのか整理を行ってほしい。舞台の演劇を見るだけで終わるのは惜しい。
- ・子どもたちがプレスセンターを直に目にすることができれば、後々に生きる有益な経験となる。
- ・外国人で溢れ返る伊勢市のまちが、子どもたちの強烈な記憶として残ってほしい。

(コミュニティの形成と学校との関係及び地域教育力の向上について)

- ・伊勢市では人口は減少しているが世帯数が増加している。地域のつながりを保つためにはコミュニティの役割が大変重要になる。高齢者割合の増加に伴って医療再編や介護と保育の連携も必要になってくる。コミュニティセンターで高齢者と子どもがつながるしくみをモデル地区から始めていくと良い。
- ・世帯数が増加し、孤立する世帯も出てくる。つまりは親が孤立するという事。子どもの教育は学校でやれるが、親の教育はコミュニティでやるしかない。親と子どもの両方を教育できるコミュニティの機能を作っていく必要がある。
- ・今後、人口減を止めようとする自治体間で競争が起きることが懸念される。伊勢市としては、人々が伊勢市に住むことのアイデンティティや地域愛など、皆で共有できる核となるものを育てていくことが大切であると思う。
- ・伊勢市ではシティプロモーションとして、地域への誇りと愛着の醸成に向けて事業を開始している。近隣の市町でも様々な取組を行っているが、人口への影響という意味では、企業が多く立地する玉城町を除いては苦戦している。
- ・魅力的な学校があれば他市町から人を呼び込むことができる。また、夕方以降に学校を地域の人々に活用してもらえるように開放する、コミュニティスクールのように地域が学校運営に大きく関わるなど、地域と学校の関わりを高めていくことが大切である。
- ・子どもたちの対話や助け合いの能力の育成について、学校も集団生活を通して育む機能はあるが、やはり家庭と地域の役割が大きい。家族が仲良し、世帯同士が仲良しということが大切である。地域で子どもを育てるまちには人が集まり、結婚や仕事が増える好循環も生まれる。セキュリティカメラなどハード面の整備を進めるより、豊かな心や地域のつながりなどソフト面を育てていくことが重要である。

【その他】

- ・法律改正後の経過措置として、伊勢市教育振興基本計画に掲げる基本理念と基本目標を伊勢市の教育大綱としたが、伊勢市教育振興基本計画の計画期間が満了する来年度に新たな教育大綱を策定することを念頭に置き、今後の会議を設定したい。

以上